

《長崎新聞 平成25年7月29日朝刊より転載》

【質問】風疹が流行していると聞きました。妊娠を希望しているのですが、風疹の予防接種を受けた方がいいでしょうか。

(30歳、会社員女性)

風疹ワクチン

【回答】風疹は、風疹ウイルス感染によって起こる発疹、発熱、リンパ節の腫れを主症状とする感染症です。子どもにも多く見られ、多くは数日で軽快します。

ただ、妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れなどの障がいのある赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障がいを先

妊娠希望者早期接種を

天性風疹症候群といわれています。

同症候群の予防のために従来は妊娠予定または希望する女性と、その夫や子どもも同居者、産褥(さんじよく)早期の女性にワクチン接種を推奨してまいりました。しかし、昨年から全国的に風疹患者が増えたのを



受けてワクチン接種者が急増したため、ワクチンの供給不足が深刻な問題となっ

87年10月1日の間に生まれた人は、ワクチンを接種していない人が多い世代です。この年代で妊娠を希望している女性はまず抗体価を調べ、必要であれば予防接種を受けてください。ご主人をはじめ家族も同様です。ワクチンは妊娠していないことを確認した上で接種し、その後2カ月間は妊娠しないようにと注意を促しています。接種後に妊娠していることが分かっても、胎児に影響はないとされています。安心して妊娠を継続、出産をしてください。

厚生労働省は6月14日、安定供給のめどがつくまで任意の予防接種では風疹の抗体価(抗体の量を示す指標)を調べた上で、抗体価の低い人から優先して接種するように通達を出しています。1977年4月2日から今回の流行では患者の9割が大人です。そのうち8割が男性で、さらにその多くを20〜40代が占めています。この年代の男性は過去に風疹の予防接種を受ける機会が少なかった人たちであり、また、風疹の被害を直接受けることの少なかった世代でもあります。

まずは抗体価調べて

風疹の抗体を持たない人たちが増えれば、また流行を繰り返し、いつまでも先天性風疹症候群の子どもたちが生まれる可能性が残ります。予防接種の目的は自身の病気予防とともに、病気の流行を防ぎ、根絶することにあります。かかったら自分だけの問題だけでなく、周りの人が感染する恐れがあります。周りの人のことも考えて、予防接種を受けられることをぜひお勧めします。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。